自治研センターニュース

1991. 1. 18
No. 93
発行責任者　深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話　044 (244) 7610

よりよい地方自治をめざして

――第6回総会開催――

㈳自治研センター第6回総会が，1990年12月21日（金），いさご会館で開催された。

楽しい思い出を残したシェフィールド大学川崎研修受入事業

「区別都市整備構想指標報告書」の作成，オンブズマン制度についての講演会記録集，市内在住の外国人のための生活ガイドブック「はーつー・はー」出版，イギリス・シェフィールド大学生の日本語研修受入等の89年度事業の報告があり，決算とともに承認を受けた。

90年度事業計画として，「在日韓国・朝鮮人を知る啓発パンフレット」，「川崎の外国人市民施策のあり方」等についても，満場一致で予算案とともに了承をされた。

役員・事務局体制は別表のとおりであり，新たな気分でセンターの業務に取り組むこととなった。

90年度㈳川崎地方自治研究センター役員及び事務局体制

役職	氏名	所属及び役職名
理事長	岩淵英之	早稲田大学教授
常任理事	深堀義孝	川崎市職員労働組合中央執行委員長
理事	森山定雄	川崎市教職員組合執行委員長
〃	永田近	全川崎労働組合協議会副議長
〃	江井茂	川崎市労働組合連合会事務局長
〃	加藤壱将	川崎水道労働組合執行委員長
〃	梅田武	川崎交通労働組合執行委員長
〃	鈴木安房	川崎市職員労働組合副中央執行委員長
〃	小西正典	〃　書記長
〃	飯塚正良	川崎市職員生活協同組合専務理事
顧問	白井則彦	電機労連神奈川地区協議会議長
監事	夏井賢	川崎市教職員組合生活部長
〃	和田秀樹	川崎市職員労働組合財政部長
事務局長	高畠正晶	〃　自治体政策部長
事務局次長	関智義	川崎市教職員組合副委員長
〃	板橋洋一	川崎市職員労働組合調査部長
〃	中嶋一郎	〃　労働学校事務局長
専任研究員	佐藤紘毅・月村太郎	
担当書記	永橋豊子	

多摩丘陵を守ろう

「みどりのネットワーク、多摩丘陵 都市緑地保全と共生のための実践と課題」

1991年2月6日（水）～7日（木）にかけて第4回「地方新時代」市町村シンポジウムが川崎市の主催で日航ホテルで開催される。

その中で，多摩丘陵の自然を守り育てるために，都市生活者・都市農家・行政のあるべき関係を考える「ワークショップ」が，多摩丘陵の環境保全の実践を行っている職員自主研究グループ，市民グループの参加によって6日（水）に開かれる。

当日は多摩丘陵の大きな地図を囲んで，各地の実践の報告とマップづくりの作業を通して，都市緑地保全のための具体的方法と今後の課題についてディスカッションしてゆく予定である。

当日のスケジュール（案）

10：00　コミュニケーションゲーム

10：20　グループの発表・事例報告（1グループ15分程度，6グループ）

※スライド，ビデオ等を使ってビジュアルに

※ワークシートを利用して，保全のための実践例の紹介。地権者・市民・ディベロッパー・行政の関係を中心にして

12：00　昼食・休憩

13：00　地図の上でディスカッション

※参加者・発表者含めて各テーマごとに討論（こども・農業・地価高騰・市民の役割・自治体の役割・法制度等）

14：30　コーディネーターから総括講演

15：30　終了

討論の柱

◇都市農業の現状 ― 多摩丘陵と農業の関係・都市における農地の役割

◇東京一極集中と地下高騰の影響 ― 地権者の立場と受益者の立場

◇都市における自然とこども ― 自然保護教育の必要性

◇都市緑地保全のための法制度 ― 開発法と自然保護等

◇今後の課題 ― 地権者・市民・自治体は具体的に何ができるか等

問い合わせ　岡田　実　933-3111　内297
中村　茂　856-3188

講演会

みどりのネットワーク，多摩丘陵 ― 都市における身近な自然の意味を問い直す ―

岸　由二（きし　ゆうじ）氏

生物学者・ナチュラリスト。1947年東京に生まれ横浜で育つ。横浜市立大学を卒業後東京都立大学で動物生態学を専攻。進化生態学と化学論に関心を持つ。

訳書は「人間の本性について」（思索社）「生物＝生存機械論」（紀伊國屋書店共訳）等がある。現職は慶応大学生物学教室，助教授。

日　時　1月29日（火）　午後6時～

会　場　市労連ビル5F講堂

読書会

「労働力移動の時代」　**手塚　和彰**（中公新書）

インドシナ難民に加えて中国からも経済難民が日本を目指す。すでに外国人労働者は日本の経済構造に組み入れられている。そしてゴルバチョフの提唱するペレストロイカの波は東欧を揺がし，“ベルリンの壁”は穿たれた。いまや世界の国境はかつてなく開かれ，現代史は分岐点に立っている。この状況下で「モノ」「カネ」に続く「ヒト」の自由化に迫られる日本はいかに対処すべきなのか。欧米のデータを踏まえ，国際国家日本の条件を提示する。

日　時　1月29日（火）　午後6時～

会　場　市労連ビル5F会議室

※どなたでも参加できます。

うなぎのねどこ

干支（えと）でいうと今年は羊年。日本では昔あまりなじみのなかった動物ではあるが肉や毛糸などで人間とのかかわりは深い。

昔々神様が動物たちに元旦の日に自分のところへ来るように言った。そして来た順番に年ごとにその動物の名をつけると約束した。

牛はゆっくりと神様の家の前まできて、戸があくのを待っていた。他の動物たちも我さきに走り、あるいは飛び、泳いで遠い道のりをやってきた。

元旦の朝、日が昇ると神様の家の戸が開いた。牛が一番で入ろうとすると、背中にこっそり乗っていたネズミがぴょんととびおりてかけて行った。

昼寝をしていて知らなかった動物がいた。神様は毎月のはじめに「つ」をつけてあげたとな。それで毎月のはじめは「ついたち」となった。

（ダーミアン）

自治研センターニュース

1991. 2. 15
No.94
発行責任者　深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話　044 (244) 7610

多摩丘陵って大切なんだね

― 地方新時代シンポ，ワークショップから ―

川崎市主催の第４回「地方新時代」市町村シンポジウムが，２月６・７日に開催されました。

その中で，産業振興会館で行われたワークショップ「みどりのネットワーク・多摩丘陵－都市緑地保全と共生のための実践と課題」には，多摩丘陵にかかわる30の市民グループと各市職員の自主研究グループと一般参加者 150名が参加し，ワキアイアイとした中でも限られた首都圏緑地の保全のための真剣な論議が展開されました。

事務局を担当した川崎市職員の自主研ネット有志が作成した70ピースの地図をパズルのように組み合わせ，７m四方の巨大な多摩丘陵の地図をみんなで完成することから始まりました。

八王子，町田，川崎，横浜，三浦の地から市民グループの代表者が緑の保護を訴え，運動を点から線，そして面に継ぐことによってなしくずし的に環境が破壊されることから手をつないで守っていこうとの意見になりました。

それは，行政的には行政区画で切り離せない相互の自治体の協力と理解が求められることへの提起でもあります。

そして，東京一極集中が多摩丘陵の侵略につながる。多摩丘陵を膨脹する東京の防波堤として，さらに東京を押し込む砦としなければならないとの視点も出されました。

いずれにしても，多摩丘陵をめぐったこれだけの規模の集会は始めてであり，まさに地方新時代へのメッセージとしての市民と自治体職員との共同作業でした。

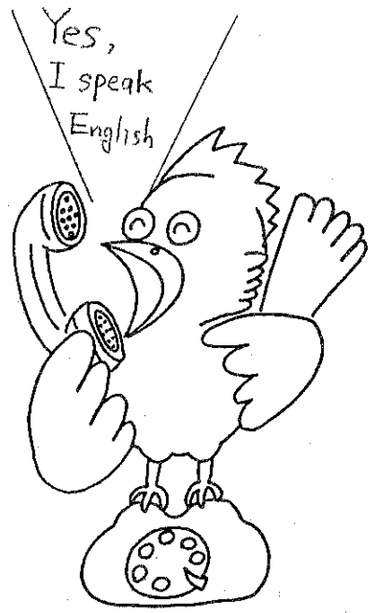
英語で遊ぼう！

―― こんなあなたに入ってほしい ――

♤日頃，英語を話す機会がなくてウズウズしている人
♡さびついた英語をRefreshさせたい人
♧見知らぬ外国人から声をかけられてもビクともしない心臓の強い人
◇“ここは日本，日本語だけで充分”というあなたに

日時　毎週金曜日　午後６時～７時30分
場所　川崎市労連会館４Ｆ会議室
講師　ティム・スコッフィールドさん
（ハンサムで若い男の人）
期間　２月22日(金)～５月17日(金)　全10回
費用　10,000円
申し込み・問い合わせ
㈳川崎地方自治研究センター
TEL　244－7610

花金☆ティム先生の英会話，新会員ただ今募集中



講　演　会

「ＯＤＡ援助の現実」

経済大国日本の第三世界に対するＯＤＡの金額は，今や世界一といわれている。91年度予算も増額される。

しかし，その実態は。ＯＤＡに名を借りた東南アジアへの経済侵略とまでいわれている。

被援助国民の自立を目的とすべきＯＤＡが政権の疑惑を生み，環境を破壊し，そして日本企業の利潤を生んでいる。

私たちの税金が，国家間の援助のしくみの中で，このような不正に使われたままでいいのだろうか。悪の再生産に利用されていいのだろうか。

講師　鷲見一夫横浜市立大学教授
日時　２月27日(水)　午後３時～５時
場所　川崎市産業振興会館11Ｆ第６会議室

読　書　会

「娘に語る祖国」　光文社刊
つかこうへい著

日　時　２月26日(火)　午後６時から
場　所　市労連会館５Ｆ会議室
助言者　佐藤紘毅専任研究員

一人の在日韓国朝鮮人として生きてきた著者。本人は大した意識もなく生活してきたと語るが，その現実問題からは逃げられない。

娘が生まれた。親として語らなければならないことがある。

劇作家つかこうへいが，愛娘に送るメッセージ。必読。

今年も、日本語の学習のために シェフィールド大学生がやってきます よろしくご協力をお願いします

自治研C三つの国際化の仕事

今，自治研センターでは川崎市の国際化施策に向けて，三つの仕事を併行して進めています。

一つは，「在日韓国朝鮮人を知るための啓発誌」の作成。市内には，９千人以上の在日韓国朝鮮人市民が生活しています。その歴史と現状を分りやすくまとめ，多くの市民に知ってもらい，いわれなき差別や偏見をなくしていこうということで進めています。３月上旬には，川崎市から刊行の予定ですのでご期待ください。

二つめは，若手の研究者たちによる川崎市の国際化政策への提言。姉妹都市交流や来川する外国人のための交流を中心とした視点から提言していこうというものです。夏頃にはまとまる予定です。

三つめは，「川崎市の外国人市民施策のあり方」の研究委員会。江橋崇法政大学教授を座長として，川崎市に住む外国人のためにどのような施策を展開したら良いかを川崎市に提言する予定です。今，川崎市の行政担当者から精力的にヒヤリングを行い，問題点の洗い出しをしています。

― 90海外研修のつどい ―

「一人でない一人旅」

日時　３月26日(火)午後１時30分から

場所　いさご会館

ユニークな研修制度として知られる川崎市職員の海外研修第２部も，８期生82名を数えるまでになった。

この間，自治体の国際化が大きな課題となり，研修生は各自の研究テーマとともに海外研修の体験を生かし，川崎市の国際化事業の進展にも少なからず寄与してきた。

アメリカ，ヨーロッパ，そして初のオーストラリア研修を踏まえた８期生の研修報告と記念講演を中心に開催する。

講演　ピピア・ギアさん（予定）

（ソ連グルジア共和国東洋研究所員）

「外国人から見た日本の地方自治」

主催　自治研センター

川崎市のイメージアップ・じゃん

― 市役所のＣＩ運動に期待して ―

今，川崎市役所では川崎市のイメージアップに向けて，ＣＩ運動を取り組んでいます。

若手の市職員を中心に，市民に愛される市役所，他都市に誇れる川崎市をめざしてその方策を練っています。

そのてはじめに，ＣＩニュース「じゃん」が創刊されました。まだ市職員だけにしか読まれていませんが，従来のおカタいイメージの広報紙とは違って，斬新でナウい装幀と内容になっています。

住みよいけれど何となくオモシロミのない街といわれる川崎市，このＣＩ運動でどれだけの面白さがひき出されるか乞うご期待。

※ＣＩ運動とは ― Corporate Identityの略で，自分の企業(市役所も)はどういったものであるか，あるべきかを自己認識し，他に認めてもらいながら改革していこうという運動。

うなぎのねどこ

言いつくされ、語りつくされ、書きつくされていることかもしれない。

でも、言わなければいけないと思う。

「戦争はイヤだ。」

一月中旬以来、マスコミは戦争一色だ。どんな娯楽番組にしたって、前後はイラク戦争がはさむ。

ソ連のバルト三国侵略もだ。

ほんの数カ月前、東西の冷戦対決が終わり、二十一世紀に向けた平和の構造を、世界中の人々が考えようとした矢先なのに。

海部政権が自衛隊派遣を決めた。憲法論議を無視し、立法府たる国会に無断で。

日本が、「石油」欲しさに戦争に加担する。

石油をめぐる正邪の論争は、生命をめぐる正義を越えてしまった。

小子は、二つのことを言いたい。

環境を破壊するだけの経済成長はもういい。石油の消費を少なくすることが、今の生活を脅したってかまわない。

それから、私は国を意識しない。日本国がどうなったってかまわない。でも、私の家族や友人や仲間が犯されたら、たたかう。

海部さん、みんなを信じよう。けして捨てたものではないはずだ。

平和って、我慢と忍耐だってば。

（タイガ）

自治研センターニュース

1991. 3. 20
No. 95
発行責任者　深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話　044 (244) 7610

湾岸戦争と安全保障 ── 緊急講演会の内容 ──

自治研センターニュースではお知らせが遅れましたが，３月15日(金)午後６時から市労連会館５階講堂で「湾岸問題と今後の安全保障体制」と題し講演会を開催しました。

講師は，磯村早苗氏（恵泉女子学園短期大学専任講師）。

石油やパレスティナ問題など，宗教・民族・利権などが複雑に絡む中東アラブ地域の歴史的経過や現状から説き明かし，今回の湾岸戦争問題に入りました。

イラクのクウェート侵攻とアメリカを中心とした多国籍軍との戦争。マスコミでも喧伝されたように，その悲惨さを二度と繰り返してはならないことを強調されました。

今後は，ポスト冷戦の世界秩序の中で，軍縮への方向をいかに模索していくか。また，限界性が明らかにされた国連の再構築。そして何よりも，日本の今回の対応のまずさと今後の世界平和への貢献に向けても言及されました。

韓国聖心女子大学がセンターに関心

旧聞に属するが，１月11日(金)夕方，韓国の聖心女子大学社会科学研究所長の李時載副教授以下６名が自治研センターの活動を調査した。

聖心女子大は，ソウル市と仁川市の中間にある富川市にあり，社会科学研究所は富川市の行政にいくつかの政策提言を行っている。

地理的にも似た川崎市に一週間ほど滞在し，川崎市の行政を精力的に視察・調査していったが，労働組合を主体とした自治研センターが川崎市の行政施策に少なからず寄与していることに関心を持ったようだ。

多忙な時間を割いての調査だっただけに，充分な論議はできなかったが，センターとの引き続きの交流を深めることを約束した。

═ 英会話入門講座開講のお知らせ ═

好評の英会話講座。４月から引き続きケリーダイアンさん（川崎市国際交流研究員）の入門講座を開講します。

日時　毎週火曜日午後６時～７時30分
場所　川崎市労連会館４Ｆ自治研センター会議室
講師　ケリー　ダイアン　アリスさん
期間　４月９日(火)～６月25日(火)　全12回
費用　12,000円　　募集人員　20名
申し込み・問い合わせ
㈳川崎地方自治研究センター　☎ 244-7610

読　書　会

「スズキさんの休息と遍歴またはかくも誇らかなるドーシーボーの騎行」

矢作俊彦著　新潮社

日時　３月27日(水)午後６時から
場所　市労連会館４階
自治研センター会議室

40歳を過ぎて，スズキさんははじめて休暇をとった。その朝届いた一冊の古本「ドン・キホーテ」。差出人の名前は奇妙に甘く懐かしく，スズキさんを20年前への時間旅行へと駆り立てた。

'90年代を予言する優しく過激なファンタジー。

91海外研修のつどい

川崎市職員の海外派遣研修のつどいが，次のとおり開催されます。

記念講演として，ソ連グルジア共和国から日本に留学中のピピア・ギア氏が「外国人から見た日本の地方自治」という題で行います。

地方自治がなかった中央集権体制のソ連で，ペレストロイカを発端に地方自治制度が確立されようとしています。

その新進気鋭のパイオニアから見た日本の地方自治，川崎の自治はどう写るのでしょうか，期待されます。

日時　３月26日(火)
午後１時30分から
場所　いさご会館
主催　川崎市職員研修所
自治研センター

留学生支援バザー「あなたも国際交流」

川崎市役所の自主研究グループＴ．Ｇ．Ａ．Ｌ．(Think Globaly Act Localy)は，３月30日(土)午後１時からいさご会館で川崎市に在住する外国人留学生のために支援バザーを開催します。

市職員労働組合の春闘総決起集会の一環として行われるもので，市職員のタンスや机の抽き出しに眠っている物を集め，格安の値段で外国人留学生に提供しようというもの。

現在，提供していただける品物と事前，当日にお手伝いいただける方を募集中です。

ちょっとしたことからできる国際交流，ぜひご協力をお願いします。

シェフィールド大学の受け入れ窓口は，川崎市の渉外課になります。

二年間自治研センターが中心になって取り組んできたイギリスのシェフィールド大学の日本語研修の受け入れ事業は，シェフィールド市と川崎市が国際友好都市（姉妹都市とは違います）の関係を結んだことから，今年は，川崎市役所内にある渉外課が事務局となって行われることになりました。

この間，ホームステイやボランティア協力を多くいただき感謝しています。

なお，センターでは側面からの協力を続けていきますので，会員のみなさまも引き続きご協力をお願いします。

統一地方選センターからの候補者選びの指標

統一地方選挙が近い。

都知事選や県知事選はマスコミでも喧しいが，地方議員レベルも熾烈な闘いが展開されている。

川崎も４月７日が選挙だ。

二年前に市長選を行ったばかりなので，今回は県知事・県議・市議の三つとなる。

「地方自治を守る」自治研センターとして，今回の選挙の候補者を選ぶにあたりいくつかの指標を明らかにしたい。

一つは平和だ。湾岸戦争の記憶も新しいが，自衛隊派兵も含めて地方自治からの平和の構築をどう考えているかを聞きたい。

二つは環境だ。

今や保守も革新もなく，水と緑と環境保全を訴える。

小子はさらに求めたい。候補者にエコロジーとリサイクルを。

生活習慣の中にエコロジーと，産業と生活と行政の中にいかにリサイクルシステムを構築するか。

三つめは，人権だ。

マスコミを媒体とした笑いは，弱者をさらにおとしめることが主流になっている。

性，人種，部落，障害者などへの差別の他に，貧富，性格，血液型なども差別の対象となっている。

人の権利に鈍感な社会だからこそ候補者の人権感覚が問われる。

四つめは，市民参加だ。

地方自治における市民参加は行政システムだけに求められるものではない。

選挙という直接的に市民の意見を反映させることの中から選ばれた議員が，選挙後は手の平を返すような姿勢には疑問を持つ。

市民にとってしきいが高すぎる議会運営や議場に言及する候補者がどれくらいいるのだろうか。

五つめは，政策だ。

ドブ板感覚も必要だが，何をどうしたいかと訴える力を問いたい。

候補者のパンフレットを見る。ほとんどが行政が出したものの焼き写しか，まがいものばかりという印象を受ける。

与党でも野党でもいい，行政が考える以外のものを行政に問い，市民に訴えるものがなければ単なる議席の数集めに過ぎない。

六つめは，自治体経営をどうするかだ。

今さら行政改革でもないだろう。

市民福祉の向上のためにお金をどう使ったらいいか。行政運営にどう注文をつけるべきか。

税金の値下げや職員数・人件費の削減などと耳ざわりのいい言葉をいうだけの候補者には期待できない。

市民・行政・議会がどう絡めば，より良い自治体経営ができるかが，これから求められるべき議員の素質だ。

七つめは，情報に対するセンスだ。

過剰な情報の中で何が重要なのか取捨選択できる能力が問われる。

右から左に情報を流す，あるいは抜ける。これではだめだろう。

自分というフィルターを通過させた情報が，いかにみんなを納得させられるかが問われる。

八つめは，ゆとりだ。

私を男にして下さい。土下座して絶叫するお涙ちょうだいははやらない。

私は絶対にこれをやります。のエキセントリックな姿は受けつけない。

人前で話せない。これはもう失格だ。人の意見も聞けるゆとりのある演説ができる候補者に信用を置きたい。

九つめは，主体性だ。

議員さんには酷だが，党則に縛られ，党利党略にこだわるのは良くない。

政治は力かもしれないが，その人がどういう判断基準を持つかは力同士の対決以前の問題だろう。

十番目は，人材の確保だ。

多様化の社会，全能の神でもないかぎり，一人で全てに応えられる筈はない。

しかしそれでも要望は多い。

それに応じるためには，自分を助けてくれ，支えてくれる人をどれだけ多くを確保できるかだろう。

後援会名簿だけを後生大事にメンテナンスするだけの発想しかもたない議員はどんなものだろう。

最後に一言。

川崎市は人口が増えたため，議席数は増える予定だった。

それが，行革の時代に逆行するという理由で議会自らが反対した。

これは議会の奢りだろう。

議会は，間接民主主義の大切な場である。本来は市民のものである。

それを議員なりの判断で，市民が議会に参加しうるチャンスを増やすことを摘んでしまった。

ナンセンス。

現職市議の全てに，民主主義の感覚に疑問を感ずる。

いずれにしても選挙は近い。

暫くは騒々しいが，我慢して耳を傾けましょう。

うなぎのねどこ

戦争体験。

ある所でそれぞれの戦争体験を語り合った。

といっても、日本で直接戦争体験をしたのは一人だけだった。

戦後生まれの多くの人たちにとっての戦争体験はどういうものだろうか。

T氏は、バングラデシュの紛争だったそうだ。

Sさんは朝鮮戦争だった。

I氏は大学で教えているが、学生はアフガニスタンの紛争から記録に残っているそうだ。

小子は、ベトナム戦争だ。

被害を受けた人々の写真や記事を見るたびに、その悲惨さと酷さに憤りを感じたことを覚えている。

戦争体験は、直接間接を問わなければ、どんな世代でも誰でも持っている。

それだけ歴史と地球上に、戦争は絶えることなく生まれ続けているということだろう。

湾岸戦争。

まさに衛星放送からライブ感覚で送られた画像は、今多感な青春を送っている若者にどんな戦争体験をもたらしただろう。

TVゲームのような戦況報告、他人事としての評論家、フィクションのような屍体、そしてブッシュVSフセインが格闘技の勝敗を決めるような見出し。そしてアントニオ猪木の人質救出。

90億$支出や自衛隊派兵の問題は国中を揺るがす議論になったが、日本はそのままだった。

「戦争は武力を持った政治だ」と喝破したのはクラウゼヴィッツだが、民主主義を守る立場から言えば、力の対決だけの戦争時には民意は外に追いやられてしまう。

アメリカでもヨーロッパでも日本でも反戦運動が展開された。

撤退したイラクでも反フセインの動きがある。

民主主義は非力だが、平和のない世界の構築のためには民主主義に頼らざるを得ない。

地道な平和運動の積み重ね。

これが小子の戦争体験からの教訓だ。

（タイガ）

自治研センターニュース

1991.7.16
No. 96
発行責任者　深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話　044 (244) 7610

あなたの 英語を 眠らせないで

GOVERNMENT AND POLITICS IN WESTERN EUROPE

7月24日（水）　翻訳ゼミ　スタート

自治研センターでは「Government and Politics in Western Europe」（西ヨーロッパの政府と政治）を約1年かけて翻訳するゼミナールを7月24日(水)より開催します。

学生時代の英語力を落としたくない人，仲間をみつけたい人，このテーマに興味のある人 ― どんな理由でも歓迎しますのでふるってご参加下さい。

原則として毎週水曜日午後6時から，市労連会館4階会議室で行い，指導は自治研センターの佐藤紘毅専任研究員他があたります。

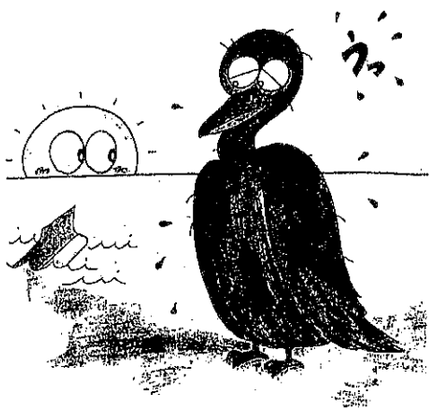
一週間に一回，知的な時間を仲間とともにもちませんか。

問い合わせ・申し込みは自治研センター（244－7610）まで。

第5回かわさき自治研集会

平和を考える

1991年7月19日（金）9：30～
いさご会館　他



平和と生活のつどい
青い目の人形交流

7月22日(月)，市民プラザで第10回目を迎える「平和と生活のつどい」が実施される。

この催しは川崎市教職員組合，生活クラブ生協，市職労，自治研センターが力を合わせて平和や環境の問題にとりくむもの。

1927年からアメリカより約2万2千体が日本各地に送られ，そのお返しとして日本からも市松人形等がプレゼントされ，人形を通じた民間レベルでの国際交流が展開された。自治研センターではこのとりくみをシンポジウムの中でとりあげる。

アメリカから送られた「青い目の人形」

講　演　会

「フィリピンの現状と日本」

講師　藤林　泰氏（PARC・ＯＤＡ調査員）

フィリピンにとって援助国No.1の日本。しかし，この援助は人々の生活向上に役立っているのだろうか。

相手国の人々の立場にたって開発と援助を考え，国際的役割を見直してゆく必要があるのではないだろうか。

自治労で9月にフィリピンに派遣するミューパックでも現地で交流会を開催する予定である。このミューパックにも参加の藤林氏に話をしていただく。

日　時　7月29日（月）　午後3時～5時
場　所　いさご会館4Ｆ第6会議室

うなぎのねどこ

(財)川崎教職員会館が主催して「ふれあいサマーキャンプ」が開催される。岩手県和賀郡東和町に小学校5・6年生がA・B2コースに分かれ40名ずつ80名が参加する。

農家に泊まっての農作業体験や地元の小学生と共にキャンプファイヤーなどを楽しむ。

土の感触をいつしか忘れてしまい、コンクリートの上ばかり歩いていると何かもの足りなく心が乾いてしまうのではないか。

こども達が目を輝かせて動き回る姿が目にうかぶ。

流れ出る汗をふきながら、思う存分自然に親しんでほしいものだ。

もうすぐ夏休み、あなたのこどもはどんな夏をすごしますか。